

第2特集

ISO規格の 最新動向

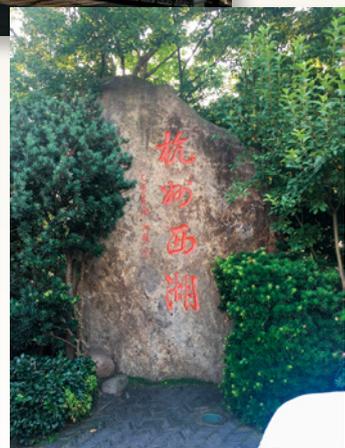
Report

ISO/TC37/SC5 MEETING HANGZHOU, CHINA

第7回
ISO TC37/SC5
杭州総会
参加報告



総会会場から徒歩10分の距離にあった
西湖（世界文化遺産）の様子



WGが開催された会議室の様子



ISO（国際標準化機構）の言語と用語（Language and terminology）に関する専門委員会であるTC 37に、翻訳と通訳（Translation, interpreting and related technology）を扱う分科委員会SC5が設置されてから7年目を迎えました。日本翻訳連盟では規格に関する議論において業界団体としての意見を発信するため、毎年開催される会議にSC5の設立時から継続参加しています。

2018年の会議は6月10日から15日にかけて中国杭州で120名の専門家が参加して開催されました。ISO 20228、ISO 20539、ISO 20771、ISO 21998、ISO 21999、ISO 22259の6つの規格が議論され、ISO 23155のNWIPが投票で承認されています。¹

この特集では特に本誌の読者の方に大きく影響する可能性がある規格について報告します。

なお、2019年はカナダのオタワで開催されます。

過去のイベント

2012年	TC37に翻訳・通訳を扱う分科委員会（SC5）設置 翻訳に関わる規格の議論開始	スペイン・マドリード総会 （日本翻訳連盟から2名が参加）
2013年	通訳に関わる規格の議論開始 日本翻訳連盟内にISO検討会設置	南アフリカ・プレトリア総会 （日本翻訳連盟から2名が参加）
2014年	通訳機器に関わる規格の議論開始 コミュニティー通訳に関する規格ISO 13611発行	ドイツ・ベルリン総会 （日本翻訳連盟から4名が参加）
2015年	翻訳サービスに関する規格ISO 17100発行 ISO 17100に基づくTSP認証サービス開始	日本・松江総会 （日本翻訳連盟から4名が参加）
2016年		デンマーク・コペンハーゲン総会 （日本翻訳連盟から3名が参加）
2017年	ポストエディットに関する規格ISO18587発行 ISO 17100に基づく翻訳者登録制度開始	オーストリア・ウィーン総会 （日本翻訳連盟から4名が参加）
2018年	翻訳品質の評価と会議通訳に関する議論 TC用語の国際標準化に関する提案	中国・杭州総会 （日本翻訳連盟から2名が参加）

¹ 参考文献：ISO/TC 37 2018年会及工作组会议在杭州顺利举行
http://www.cnis.gov.cn/hzjl/dtxw/201806/t20180622_24134.shtml

ISO TC37/SC5が管理する 国際規格およびプロジェクト(2018.7.12現在)

この表は2018年7月にISOのウェブサイトで公開されていた情報をもとに編集部において作成したものです。

審議の進行にともない最新の状況が表の記載内容から変更される可能性がある点にご注意ください。

最新の情報は次のURLから確認できます。<https://www.iso.org/committee/654486.html>

番号	名称	提案 段階 NWIP	作成 段階 WD	委員会 段階 CD	照会 段階 DIS	承認 段階 FDIS	発行 段階 IS
翻訳							
ISO/TS 11669:2012	Translation projects — General guidance						90.93 国際規格 確認
ISO 17100:2015 /Amd 1:2017	Translation services — Requirements for translation services						60.60 国際規格 発行
ISO 18587:2017	Translation services — Post-editing of machine translation output — Requirements						60.60 国際規格 発行
ISO 21720:2017	XLIFF (XML Localisation interchange file format)						60.60 国際規格 発行
ISO/CD 20771	Legal translation services -- Requirements			30.60 CD投票			
ISO/AWI 21999	Translation quality assurance and assessment — Models and metrics		20.00 新規登録				
通訳							
ISO 13611:2014	Interpreting — Guidelines for community interpreting						60.60 国際規格 発行
ISO 18841:2018	Interpreting services — General requirements and recommendations						60.60 国際規格 発行
ISO/DIS 20228.2	Interpreting services — Legal interpreting — Requirements				40.60 投票終了		
ISO/AWI 21998	Medical/healthcare interpreting		20.00 新規登録				
ISO/NP 23155	Interpreting services — Conference interpreting — Requirements and recommendations	10.99 新規プロ ジェクト承認					
通訳機器							
ISO 20109:2016	Simultaneous interpreting — Equipment — Requirements						60.60 国際規格 発行
ISO 2603:2016	Simultaneous interpreting — Permanent booths — Requirements						60.60 国際規格 発行
ISO 4043:2016	Simultaneous interpreting — Mobile booths — Requirements						60.60 国際規格 発行
ISO 20108:2017	Simultaneous interpreting — Quality and transmission of sound and image input — Requirements						60.60 国際規格 発行
ISO/CD 20539	Translation, interpreting and related technology — Vocabulary			30.99 CD承認 DISへ			
ISO/DIS 22259	Conference systems — Equipment — Requirements				40.60 投票終了		

参考:プロジェクトの 各段階と関連文書

Project stage	Associated document name	プロジェクトの段階	関連文書名称	関連文書略語
Proposal stage	New Work Item Proposal	提案段階	新業務項目提案	NWIP
Preparatory stage	Working Draft	作成段階	作業原案	WD
Committee stage	Committee Draft	委員会段階	委員会原案	CD
Enquiry stage	Draft International Standard	照会段階	国際規格案	DIS
Approval stage	Final Draft International Standard	承認段階	最終国際規格案	FDIS
Publication stage	International Standard	発行段階	国際規格	IS

出典：ISO/IEC 専門業務用指針，第1部 統合版 ISO 補足指針 - ISO 専用手順 第8版 2017 を元に編集部にて作成

翻訳

21999 翻訳品質の保証と評価に関する規格

名称

21999 Translation quality assurance and assessment — Models and metrics

種類

ガイダンス文書 要求事項

構成

約20ページ(本文1~8章+附属1~3)

目的と範囲

翻訳の品質保証および品質評価モデルならびに翻訳プロセスを管理するためのメトリクスを作成・運用する際に参考とするガイダンス文書。品質保証および品質評価の客観的なベンチマークや品質保証に役立つ基準を提示することを目的とする(2018年杭州総会以前の段階)。

過去の経緯

2016年12月、新規プロジェクトを開始させるか否かの投票が行われた。賛成19か国、反対2か国、棄権8か国にて可決(日本はコメント付き賛成)。2017年5月、初めてのWorking Draft (WD) がプロジェクトマネージャーより各国に回覧された。2017年ウィーン総会では、規格の対象範囲を“Translation quality assurance and assessment” から “Assurance” を削除するなどの議決がなされた。

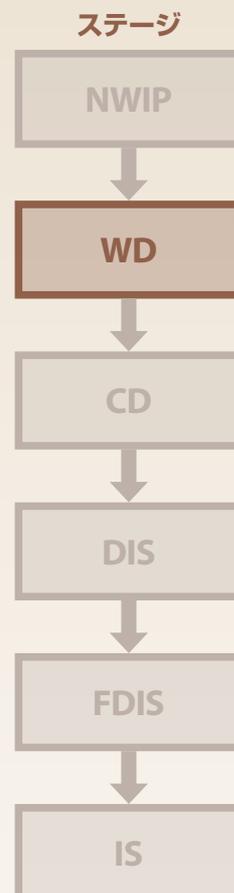
総会での議論および日本にとっての懸念事項

今回の総会では、ウィーン総会で決定された事項から一步踏み込んで、規格の名称と範囲そのものを見直すための議論が展開された。新たな名称は“Translation assessment”のみとなり、範囲もそれに準じて大幅に狭めることとなった。Plenaryでは、規格の名称および範囲の変更についてPメンバーを対象とした投票が行われ、賛成多数により、変更が採択された。

(17か国中賛成11、反対2、棄権4)

今後の予定

今後は名称と範囲を変更したことにより新たなWDを策定した後に電話会議が開催される見込み。



報告者



森口 功造

Moriguchi Kozo

株式会社川村インターナショナル 常務取締役

日本翻訳連盟理事。品質管理担当として(株)川村インターナショナルに入社後、翻訳、プロジェクトマネジメントなどの制作全般業務を経験。ISOの規格策定には、JTFのISO検討委員会発足時から参加し、当検討会の副議長を務める。

TC37 SC5 国内委員

18841 一般通訳サービスの要求事項及び推奨事項

名称

ISO 18841 Interpreting services - General requirements and recommendations

種類

ガイダンス文書 要求事項

目的と範囲

通訳者、通訳会社を対象とした一般的な通訳サービスに関する要求事項及び推奨事項を規定し、国別ノートに記載した規格である。サービス利用者への推奨事項も規定されている。

過去の経緯

- 昨年のウィーン年次総会までの経緯については、「第6回 ISO/TC37/SC5 ウィーン年次総会 参加報告」『日本翻訳ジャーナル』2017年9/10月号(291号)(一般社団法人日本翻訳連盟: <https://journal.jtf.jp/291/>) を参照のこと。
- 2016年10月、DIS投票が開始された。
- 2017年1月、賛成多数で可決された(賛成24ヶ国/反対0/棄権7ヶ国)。
- 2017年5月、FDIS案及びコメント集が各国に送付された。同案の内容について、ウィーン総会で議論が行われた。
- 2017年8月初旬、FDIS投票開始
- 2017年12月 賛成多数で可決された(賛成26ヶ国/反対0/棄権8ヶ国)
- 2018年1月 ISO 18841 発行

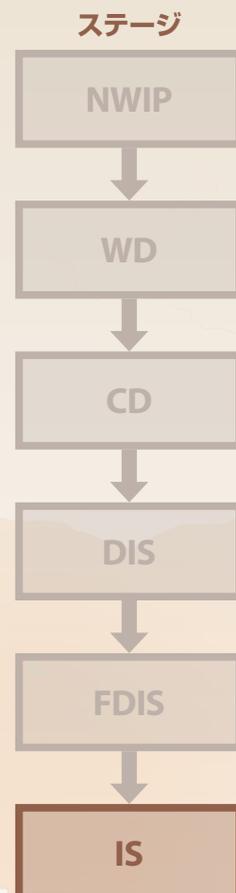
総会での議論

ISO 18841 発行後、新たな流れとして、杭州会議では、“ISO23155 Interpreting services — Conference interpreting Requirements and recommendations” 「会議通訳の要求事項及び推奨事項」を、全会一致で進めていくことが決まりました。会議では、Scopeの部分でプロジェクトリーダーと参加者間で認識の違いにより、多くの議論の時間が費やされました。

決まった内容は、対象を会議通訳者のみに限定するのではなく、通訳サービスを提供するプロバイダーも含めたものにすることが全会一致で決まりました。

今後、ISO 18841をベースにしたWDが、年内に出てくる予定です。

これ以外に、「法務通訳サービスに関する規格」や「医療通訳サービスに関する規格」についても、杭州会議では、取り上げられていますが、JTF委員内に専門家がいいため、参加しておりません。



報告者



村下 義男

Murashita Yoshio

株式会社コングレ・グローバルコミュニケーションズ
代表取締役社長

日本翻訳連盟理事。2010年より(株)コングレの通訳部・翻訳部門責任者。その後2013年より、(株)コングレ・グローバルコミュニケーションズに出向。2017年7月より現職。2015年よりJTFのISO検討委員会・通訳部会委員として参加。
TC37 SC5 国内委員

用語

NWIP

テクニカルコミュニケーション分野における 標準用語策定に関する新規提案

名称

NWIP on Technical Communication Vocabulary

種類

ガイダンス文書 要求事項

構成

不明 (NWIPのため文案はこれから)

目的と範囲

産業用技術文書の作成効率や精度を向上させることを目的として、その基礎となる多言語における用語の国際標準化を推進することを目的とする。具体的には、テクニカルコミュニケーション (TC) 領域に関する重要な用語を選定し、内容の定義を行う。また、欧米言語、日本語、および中国語での訳語を付与した標準用語を定義する。

過去の経緯

テクニカルコミュニケーションの領域において有力な業界団体が存在するドイツ、中国、そして日本の三か国が中心となって、TCの業界で使用される重要な用語に関連してNWIP (New Work Item Proposal) を提案した。

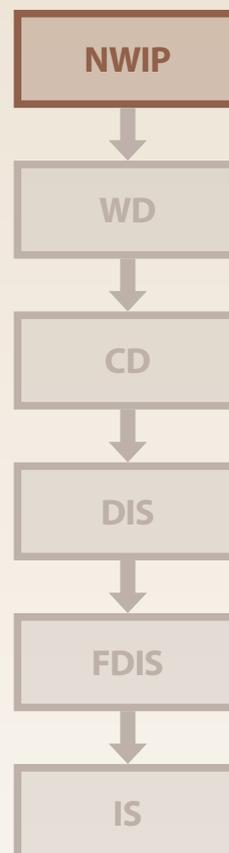
総会での議論

今回の総会は、NWIPをより具体化し、NP (つまり新規提案として受け入れるかどうか) の投票に進めるかどうかを判断するため、各国のExpertsが意見を交わした。そのため、提案国であるドイツが中心となって用語定義の重要性についての説明があり、その後に対象とする範囲、および採用するプラットフォームについての意見交換があった。Plenaryでは、たたき台となるWD (Working Draft) あるいは最低でもそれに類する概要文書を策定した後、できる限り早くNP投票を実施することが決定された。

今後の予定

今後はConvenerを中国、Project leaderをドイツとし、日本もco-project leaderと補完的役割を担うことが決まった。関係国が中心となり、新たなWDを策定した後にNP投票が実施される見込み。

ステージ



報告者



森口 功造

Moriguchi Kozo

株式会社川村インターナショナル 常務取締役

日本翻訳連盟理事。品質管理担当として(株)川村インターナショナルに入社後、翻訳、プロジェクトマネジメントなどの制作全般業務を経験。ISOの規格策定には、JTFのISO検討委員会発足時から参加し、当検討会の副議長を務める。

TC37 SC5 国内委員